



門司港は、大正ロマンの香りが残る観光地です。しかし、その建物、景色が映画やドラマのロケ地として多く取り上げられています。このまち歩きでは、映画のロケ地にスポットを当て、これまで撮影されてきたロケ地を巡り、その映画の世界を作り上げた建物や景色を楽しんで頂けます。

1	タイトル	黒執事		2	タイトル	THE LAST MESSAGE 海猿		3	タイトル	あなたへ	
	ロケ地	①関門海峡ミュージアム			ロケ地	②門司港西海岸 (関門海峡ミュージアム海側芝生広場一帯)			ロケ地	③門司区役所、⑩門司港ホテル横海岸沿い、 ⑫門司港駅	
公開	2014年	配給会社	ワーナー・ブラザーズ映画	公開	2011年	配給会社	東宝	公開	2012年	配給会社	東宝
監督	大谷健太郎、さとうけんいち			監督	羽住英一郎			監督	降旗康雄		
出演	水嶋ヒロ、剛力彩芽、山本美月、優香 ほか			出演	伊藤英明、加藤あい、佐藤隆太、吹石一恵 ほか			出演	高倉健、田中裕子、佐藤浩市、草彅剛、綾瀬はるか ほか		
撮影風景				撮影風景				撮影風景			
4	タイトル	この胸いっぱいの愛を		5	タイトル	レトロの愛情		6	タイトル	プルコギ	
	ロケ地	②西海岸、④清滝地区 他 丸山、庄司			ロケ地	⑤栄小路、⑩門司港駅 他 トロッコ列車			ロケ地	⑥栄町銀天街	
公開	2005年	配給会社	東宝	公開	2013年	配給会社	よしもとクリエイティブ・エージェンシー	公開	2007年	配給会社	ファントム・フィルム
監督	塩田明彦			監督	岡太地			監督	グ・スーヨン		
出演	伊藤英明、ミムラ、勝地涼、宮藤官九郎、吉行和子 ほか			出演	ロバート(馬場裕之、秋山竜次、山本博)、肘井美佳 ほか			出演	松田龍平、山田優、井浦新、田村高廣 ほか		
撮影風景				撮影風景				撮影風景			
7	タイトル	錆びたナイフ		8	タイトル	スパイ・ゾルゲ		9	タイトル	ザ・マジックアワー	
	ロケ地	⑥栄町(山城屋バス停前)			ロケ地	⑦海峡プラザ、⑧旧門司三井倶楽部、 ⑨旧大阪商船、⑩門司港ホテル、 ⑪門司港駅 他 郵船ビル			ロケ地	⑫門司港駅	
公開	1958年	配給会社	日活	公開	2003年	配給会社	東宝	公開	2008年	配給会社	東宝
監督	舩田利雄			監督	篠田正浩			監督	三谷幸喜		
出演	石原裕次郎、小林旭、宍戸錠、北原三枝、白木万理 ほか			出演	イアン・グレン、本木雅弘、椎名桔平、上川隆也 ほか			出演	佐藤浩市、妻夫木聡、深津絵里、綾瀬はるか、西田敏行 ほか		
11	タイトル	夢の女		10	タイトル	釣りバカ日誌 10		11	タイトル	男はつらいよ 幸福の青い鳥	
	ロケ地	⑫門司港駅			ロケ地	⑫門司港駅			ロケ地	⑫門司港駅	
公開	1993年	配給会社	松竹	公開	1998年	配給会社	松竹	公開	1986年	配給会社	松竹
監督	坂東玉三郎			監督	山田洋次			監督	山田洋次		
出演	吉永小百合、永島敏行、佐々木すみ江 ほか			出演	渥美清、倍賞千恵子、志穂美悦子、長瀬剛 ほか			出演	渥美清、倍賞千恵子、志穂美悦子、長瀬剛 ほか		

松永文庫 松永室長より

北九州フィルム・コミッションは、1989(平成元)年、全国の先駆的存在として、映画やテレビドラマの撮影支援を行うことを目的に活動を始めました。以来、永年に渡る地道なロケ勧誘活動と、多くの市民の協力によって、北九州市は日本の代表的なロケ地として、映画・テレビ関係者に高く評価されています。

ロケ地としての歴史は古く、戦後1949(昭和24)年、若松で東映作品の『残侠の港』をはじめ、多くの映画撮影が行われました。門司港でも、1966(昭和41)年に松竹のアクション映画『炎と錠』が撮影されて、大きな話題となりました。その後も国内外から多くの撮影チームが訪れて、スクリーンやテレビを通じて、広くレトロの街門司港は紹介されています。



門司港ロケ地巡り

① 関門海峡ミュージアム 開9:00～17:00 休不定休
水嶋ヒロ主演【黒執事】関門海峡の過去・現在を五感で感じられるミュージアムです。海峡にまつる歴史を再現した「海峡アトリウム」「海峡歴史回廊」をはじめ、大正時代の街並みを再現した「海峡レトロ通り」など見どころいっぱいです。

【黒執事】では海峡アトリウムが剛力彩芽、山本美月が潜入した高級クラブとして撮影されました。また、【黒執事】に出演した、水嶋ヒロ、剛力彩芽、山本美月が劇中で実際に使用していた衣装が、【旧大連航路上屋】1階の【松永文庫】に展示されています。

⑫ 門司港駅
男はつらいよ、夢の女、釣りバカ日誌10、スパイザルゲなど、数多くの作品に利用された駅舎。

明治二十四年に建てられた門司駅(現在の門司港駅)は、大正三年に場所を二百メートルほど移し、現在の場所に立て替えられました。ネオ・ルネッサンス調の木造建築で、ドイツ人技師ヘルマン・ルムシュツェルの監修の下に建てられました。青銅製の手水鉢や水洗式トイレ(当時としては非常に珍しい)、大理石とタイルばりの洗面所、御影石の男性用小便器などとても重厚でモダンな作りとなっています。この門司港駅、駅舎としては初めて国の重要文化財に指定されています。

⑩ 門司港ホテル
往年の大スター、地元の名優でもある高倉健さんの最後の遺作『あなたへ』をはじめ、三谷幸喜監督の作品『ワジツクアワー』でも撮影されている門司港を代表するホテル。イタリヤ建築界の巨匠アルド・ロッシが設計した世界に誇れる門司港レトロのランドマークとなっています。芸術作品とまで評されるその造形美は今や関門海峡の風景に溶け込み周囲の歴史的建築物と同様に、そこに何十年と存在しているかのような強い存在感を放ち続けています。

⑪ 門司港ホテル横海岸沿い
故高倉健主演【あなたへ】のラストシーンを撮影した場所。全国恋人の聖地として認定されている跳ね橋【アル・ウイングモジ】へと続く道。冬は綺麗なイルミネーションで彩られる。関門橋をバックに記念撮影を行える人気スポット。恋人の聖地の【アル・ウイングモジ】は、跳ね橋が閉じた時に、最初に手を繋いで渡ったカップルは一生結ばれるとされている…。

② 芝生広場
【THE LAST MESSAGE 海猿】の感動のラストシーンのロケ地。雄大な関門海峡、関門橋が見渡せ、釣り場としても人気。近くに、関門海峡ミュージアム、旧大連航路上屋があり、関門海峡花火大会、門司みなとまつり、門司港レトロラウンジなどの主会場となっている。1万トン級の船が7隻係留可能だった旧西海岸埠頭は、昭和初期、大陸航路の玄関口として多くの旅客で賑わった場所でした。ロケ地で使用されたこの場所は、埋め立てられた場所です。

… トイレスポット
… 開館時間
… 休館日

③ 門司区役所 開9:00～17:00 休土日祝日
故高倉健最後の主演映画【あなたへ】のロケ地でもある。劇中で実際に使用された区役所のベツチは、旧大連航路上屋内にある松永文庫に展示されている。九州大学(旧九州帝国大学)の多くの建物を設計した倉田謙の設計。昭和5年に建てられ、少し高台にあり、建物の威厳を感じられる。

④ 清滝地区
伊藤英明、ミラ主演映画【この胸いつぱいの愛を】の撮影が、この地区で行われている。木造三階建ての三宜楼を始めとする料亭が数多く並んでいた地区。また、レンガ造りの壁など、海沿いのレトロとは違ったレトロを感じることが出来る。三宜楼は昭和30年に廃業したが、地元保存会の方々の熱心な保存活動の末、北九州市に寄贈され、平成26年に耐震工事が完了し、50年ぶりの営業となる。

⑤ 栄小路
北九州市出身のロボットが主演しているショートフィルム【レトロの愛情】のロケ地。栄町銀天街の途中にある小路。V字に折れる小路に入ると、どこかノスタルジックな雰囲気にも包まれる。門司港の建物以外でレトロを感じる事ができる小路。

まち歩きの写真スポットとして人気。

⑥ 栄町銀天街
松田龍平主演映画【ナルコギ】でヒロイン役の山田優と2人で歩くシーンが撮影されている商店街。今ではなかなか目にすることが出来ない個人の玩具店があったり、昔ながらの服飾店や、新しい感覚のスイーツのお店まで様々な店舗を楽しむことが出来る。

⑦ 海峡プラザ 開 10:00～20:00 休なし
イアン・グレン主演の【スパイ・ゾルゲ】のロケ地。映画のシーンでは、大掛かりな爆発シーンが撮影された場所。

門司港レトロの複合商業施設。1階には、おみやげや地元産の海産物・雑貨が売られるマーケットです。2階には自慢のラストランなどがある。記念撮影スポットとして、じーも、バナナマン、フランクナインの銅像が置かれている。

⑧ 旧門司三井倶楽部 開9:00～17:00 休なし
建物の特徴を活かし、『K-20 怪人二十面相・伝』では、アインシュタイン博士が宿泊した寢室で、鏡の前に立つ松たか子の、ウエディングドレスファッションが撮影された。

大正10年(1921)に三井物産門司支店が、接客・宿泊施設(社交倶楽部)として港から奥まった住宅地の谷町に建設。戦後は、旧国鉄が買収、「門鉄会館」と改称されたのち、北九州市に無償譲渡され、平成2年に国の重要文化財に指定される。優雅な雰囲気漂う大正モダン建築の内装は、リアルタイム調の飾りかされており、現在ではファッション撮影の場としても多く利用されている。



⑨ 旧大阪商船 開9:00～17:00 休なし
第二次世界大戦中の実話を元にした『スパイ・ゾルゲ』では、オレンジ色のタイルと白い石の帯が調和した印象的な外観【1階鉄格子付近・木椅子使用】が広告社のロビーとして使われ、スパイ同士が暗号「浮世絵書いたし。」で、お互いを確認するというシーンが撮影された。

大正6年(1917)に大阪商船門司支店として建設される。当時、門司港からは台湾、中国、印度、欧州へと、一ヶ月の間に60隻もの客船が出航しており、大阪商船ビルはその拠点の一つとして、1階は待合室と税関の派出所、2階はオフィスとして使われていました。